

ぐぶりーさびら

(お邪魔します!)

訪問先： 山内 眞樹 会員

訪問者：細野委員長、古荘委員、玉元宏志委員

訪問日：平成25年10月31日

於：山内公認会計士事務所

～中山会員、石川会員にも同席していただきました～



細野 今回は、山内先生の事務所にお邪魔しています。今日は宜しくお願い致します。早速ですが、山内先生が会計士を目指したきっかけは何ですか？

山内 高校3年の時に、父が京都で自動車の修理工場をやっていたのですが、その時の経理部長が公認会計士試験の問題集を読んで勉強していて、彼から初めて公認会計士という名前を聞いたんです。昭和33、4年頃ですかね。だけど、僕が大学行く時にその人が使い込みをした（一同ビックリ）。それで、会社が潰れそうになったり色々あったんですが、母が金を借りてきてくれて大学には行くことができました。そして、大学卒業後は東京の雑誌社に入りました。雑誌社の社長が離婚するということで、弁護士事務所では財産分与の書類等を作ってもらったのですが、ワイフはその弁護士事務所の事務員でした。

ちょうどその頃父から会社が潰れそうやと電話があって・・・使い込みされたおかげで手形が落ちんようになった、京都へ帰って来てくれと言われて。父の会社は、お金はないし大変でした。結局この原因は、こ

の使い込みということで、それで会計士になろうと思いました。そして、4年目くらいに試験に受かったんです。

京都のトーマツに入って、士補で最初の仕事が和議の調査でね。建築関係の会社の和議の調査を担当させられました。その社長は、頭のよい人で書類を全部見せてくれるんですが、見せた後、ドラム缶で全部燃やしてしまう。「君、もう見たやろ」という訳ですよ。もう一回聞こうと思っても教えてくれない。でも、結局会計は帳簿よりも事実ですから、時間外も使って取引先や4つの銀行全部まわって事情を聴いて、報告書を出したんですよ。そしたら、裁判官は報告書をみて「これは和議どころやない、詐欺だ」と刑事事件になってしまいました。僕は、父が使い込みで被害にあったこともあって、これを見つけるのは会計士だ、という気持ちで取り組んで。先輩からも、会計士は銭形平次みたいなもんや言われて（笑）。それから1年半経った頃に、東京にワイフの母がいたのですが、東京に来ていと言われて。それで東京のトーマツに入ったんです。

細野 その頃おいくつだったんですか？

山内 その頃30歳くらいだったんじゃないですかね。あの時分のトーマツというのは、1日は2日あるという訳です。朝の9時から午後の2時までの1日と、2時から夕方7時までの1日と。とはいっても、夜は12時頃まで働いている人もよういましたけど。そういう雰囲気でした。東京のトーマツは新規の顧客が増えたんですよ。ものすごく忙しかったですね。

その頃、沖縄が復帰になりました、昭和47年にね。ワイフは沖縄の出身でして、ワイフの姉の婿さんが、今のハーバービューホテルの土地を売買して、新聞にもでるくらい儲けましてね。そのワイフの義兄の一人が東京のトーマツに来て、「自分らは沖縄の糸満で会社を作って商売をするから経理とか企画とかに公認会計士が必要だ」という訳ですよ。ワイフは沖縄行きには大反対でしたが、その会社の決算書はすごくて、10億程はお金あるしね。行ったら、もう土地を買ったり、手付を打ったり、もうなくなりましたけどね（笑）。そこの企画、経理部長で来たんです。あちこち工事を請け負うけどお金を取れなかったりとか、沖縄へ来て1年も経たない内に倒産寸前でした。その後も他の会社に勤めましたが、うまく馴染めず海洋博前に会計事務所を始めたんですよ。

細野 ご自分でということですね。

山内 そう。最初は小祿の自宅でやってたんですけど、それから、東町のホテルに移りました。そのあと最初は仕事は何もない、月曜日に仕事をする火曜日にはない。ひ

までひまで。ワイフの昔の同級生の弁護士の方で多くの倒産事件をやっている人がいて、その人の仕事をさせていただいたんですよ。和議、会社整理などが復帰後160あったらしいのですが（民事再生の前まで）、その内の100くらい調査させていただいたんですよ。だからあの時分は裁判所で僕の名前知らん人はもぐりいうくらい有名だったんですよ（笑）。倒産事件で有名な裁判官が東京へ転勤される時は、君は社交性もなく、東京へ一緒に来て倒産事件をやれと言われてました。その内にだんだん知り合いが増えていって落ち着いたというか。それでリースビルへ移りました。

細野 リースビルに移ったのは独立されて何年くらいですか？

山内 えっとね・・・昭和63年に移ったんですよ。昭和48年に沖縄来てから14、5年経っていたんじゃないかな。

細野 その頃は県内の会計士はどれくらいでしたか？

山内 会計士はね、最初に来たときに12番目でした。その頃、全然増えなかったんですよ。その頃で20人足らずですかね。なかなか増えないんですよ。監査対象の会社がたぶん少なかったんでしょうね。

細野 その頃は山内先生お一人で、事務員とかはまだいなかったのですか？

山内 東町にいた頃はワイフもいれて、男性5人、女性2人の7人いたんですよ。だけどね、あれは忘れもしないけど、昭和6

0年の4月1日にその内の1人が辞め、あと4人が4月の28日に一斉に辞め、女性2人になった。その時、約40件の申告がありました。で、若いですから2つくらい申告書を作ったんですが、もうかなわんと思って、これまでに辞めた人20人位の中から、めばしい人に電話したら3人来てくれて。会計事務所は連休は休みだから、30日から5日までずっと来てくれたんです。その後、なんとか空いた椅子を埋めてね。お客さんに「みんな辞めました」いうたら、「そうなると思ってました」いわれてね。(笑)

細野 山内事務所の創世期の危機(笑)

山内 今、話してる内に思い出してね(笑)。人数も少なくなったし、ちょうどポート観光ホテルもクローズしたので、リースビルに移ってきたんですよね。

古荘 その頃は申告書も当然手書きだったんでしょうか？

山内 そうですね。手書きでしたね。人がよくやめるのは、こちらの人格もよくないし、仕事も大変だし…。

細野 その頃、山内先生はおいくつくらいになっていらっしゃいましたか？

山内 あれはね、42歳の厄年。(笑) やっぱり厄年っていうのはあるなと思ってね。今は誰も辞めなくなったな。中山さんも先月の21日で10年、ホントは11年ですけど…。

中山 あっ、中地先生の所へ行っていた期間も含めて10年です。その期間を抜いたらちょうど9年です。

山内 そうか、9年か。じゃあ、あれ渡すのは早かったな…。(笑)

中山 10年のお祝いを頂きまして(笑)。

山内 あれから10年続いた人にはお祝いをするようになったんです。それをこないだ渡したんですけど、1年早かった(笑)。



玉元 現在の従業員は8人くらいですか？

山内 そうですね、ワイフも入れてね。

古荘 色々、公職というか、役職にも就かれているかと思うんですけども。

山内 そうですね。沖縄会の会長をさせてもらったあたりくらいからですかね。県の社会福祉協議会とか産業公社の監事とかですね。

細野 沖銀の社外取締役もやられてましたよね。一般企業でもやられてたんですか？

山内 いやいや、ほとんどやってない。一般の会社は原則としてやらなかったですね。最近はちょっとと言われるとやったりもします。1年とか2年とかですけど。

細野 先生が会計士としてやられてきた中で、モットーというか、信念というか、そういうのがあればお伺いしたいのですが。

山内 それは、透明性のある会計報告ですよ。それが一番会社のためになりますし、一番能率的ですよ。こっちも楽やし。ま、それがなかなか難しいと言えれば難しいんですけどね。

古荘 リクエストとかに対する断り方のコツみたいなものはあるんですか（笑）？

山内 逆に、断られたことは何回もあります。税務の顧問先も、何回も断られています。きっちりせんといかんと言うと、それをするのがお前の仕事やろいわれてね。それはこっちの仕事と違うということですね。それと、使い込みというのを、50ほど捕まえました。

古荘 従業員だったり、社長だったりですか？

山内 役員の場合と従業員の場合ですね。ある会社で計算したら30億使い込みしてたんですよ。しかも、資料は全部燃やしてね。ただ、直近のものは燃やせないでしょ。1年半くらいは残っていた。それを元に過去の10年以上でしたけど使用した電力料を電力会社で調べて、生産量を計算して、金額に掛けあわせて・・・

細野 推定したということですか？

山内 そう。報告書はこれくらい（だいぶ分厚く）になりましたけど。部分的な事実も加えて推定してね。30何億かになりましたね。

それがあったのと、他にも、パートナーズというところに20億の投資をしていた機関があったんやけど、その投資の期限がきてるのに、「5日だけ待ってくれ、10日待ってくれ」と来たらしい。私は監事をやってましたので、役員全員呼んでその機関の本部に報告すべきと言いましたが、「はい」と聞かんわけです、もう少し期間をくれと。そして「監事監査も終わったし一杯行きましょう」というんで夕食会に行って、そして2次会でBARに連れていってもらったら、向こうが「報告をひと月待ってくれ」と言うてね。それで、「待ってくれ」「待たん」でBARで喧嘩したんですよ。BARのママがね、「うちでこんな風な喧嘩をする人は初めてや」言うて下まで送ってきよったんですよ。それでね、翌日すぐ本部へ連絡して、それから20億のお金の追跡を始めたわけです。最初は、M行の麹町に、そこからC BANKにいて、それからスイスのK行に行って、またその次のスイスのS行へというところまでいったんですよ。そこの本部の機関の有能な弁護士がそれを追いかけてくれて。ただね、C BANKからは20億が18億になった、そこで2億はパクったんですよ。とりあえず18億行ったということで、これを返せということになった。これは自分のもんやいう証明をせないかんでしょう。スイスで18億を固定しないとイケない。

でもなかなか抑えられない。その弁護士がね、スイスの高名な弁護士と連携した。そのスイスの弁護士が特別よかったみたいで、スイスの銀行のニューヨークに送る寸前の預金を止めてくれたんですよね。それで、それが止まっている間にこちらの弁護士がこちらのものだと対応してくれて。1年半かかりましたけどね。1億くらいかかりましたよ、弁護士の手数料に。ディスクロージャー誌も全部書き換えでした。全部、僕が「嘘書いたらあかん」いうことですね。ただし、18億しか返らないはずでしょ。そしたら、為替の影響で20億以上返ってきたんですよ（笑）。「18億失ったけど20億以上返って実損は無かったし、先生これでええでしょ！」というわけですよ。いや、2億パクられたことを書いて、訴訟費用や弁護士に1億近く払ったことを書いて、そして為替で儲けたのはそれはそれとちゃんと書かんとあかんといいました。

ある時期には、使い込み専門の会計士と言われて・・・和議も専門でしたけど、もう10年以上前で止めましたね。今は余りやりたくないですね。また体力ももたない。使い込みの調査はハードですからね。あとから話すのは楽でええけどね。

細野 そういう話は中山さんとか石川さんとかに普段話されることはあるんですか？

中山 お昼食べたりしながら一部は聞いたりとかありますけど、ここまで大変な話は初めて聞きました。

細野 先ほどもお話しありました、透明性のある会計報告・・・相手が泣きついてきてもそれは違うだろうというところは一本筋

を通していくのが信念ということでしょうかね。会計士はそうあるべき、当然そうなんですけどね。

山内 それ自体に価値があると思うんですよ。ただね、こちらの判断が正しいかどうかというそれは難しいんですよ。こう考えられるとか、ああ考えられるとかね。だから、辞めるか（主張を）通すかですよ。それか相手の言うことで OK するかですね。あんまり OK はしないですね。1回 OK したことがありましたけどね。公庫の借入でしたけど、そのあと公庫へ行って「あれは僕が間違っていました」と。会社にも相談もせんと言うたから、借入はダメ、もちろん首ですよ（笑）。

細野 そこまでしても、筋を通すということですよ。

山内 ええ。間違いとの戦いでしょ、僕らの仕事はね。まず謝ってね。こちらの責任で間違ったときは、少ししかない全財産出してもう謝るしかない。冷や冷やすることばかりですよ。

玉元 他人事とは思えない話ですよ。これから色々そういう経験をやっていくことになるんだろうなと思うと・・・今はとりあえず、考えても仕方ないので前に進むしかないんですけど（笑）

山内 貧乏になってもかまへんしね。けど、これは許されんと思うことは何回かありますよね、間違いは特に。不注意ですね。時間を使わない、安易にしてしまう、やりすぎ・・・忙し過ぎですね。必ず確率的に出

てきますね。ま、謝るしかないんですよ。もう言い訳はしないことにしてるんです。謝ってね、怒られるけど、分かってくれる人は分かってくれるしね。

細野 最後に、中堅も含めてまだまだこれから色々な経験を積んでいく会員が沖縄会にもいる訳ですけども、沖縄会の会員に今後こんな形で頑張ってもらいたいとか、どうあって欲しいとか、山内先生のお話を伺えたらと思うんですけど。

山内 最初に沖縄に来た時に、会計士であるというだけで価値を認めていただくようなことが度々ありました。だから、全然知らない所でも商売していったと思うんですけど。その世間の期待にね・・・世間の期待というのはやっぱり会計士というのは正しいことをする人やということが基本になっていると思うんです。だから、その期待に応えるというか・・・僕らの世界では、嘘つかんというのが一番能率的やということね。うまく言えないですけど、やっぱり正しいことをする人やというのが期待だと思うんですよ。バカにされたり融通のきかん奴やと色々言われたりしますけどね。だけど、それが基本にあると思うんです。先輩の人も全部そんな努力をされているんですね。会計士になった限りやっぱり正しいことをね。

玉元 会計士の一番根幹のことを聞かせて頂いた気がします。

細野 今後やっぱり、気持ちとしては正しいこととしてちゃんと期待に応えるというのを胸に頑張っていくっていうのが一つだと

思うんですよ。

山内 そうですよ。ちょっとぐらいうるさいくらいに思われているほうがいいと僕は思うんですよ。ま、うるさいと思われずにそういうことが出来る人はレベルが高いと思うんですけどね。

細野 特に監査という側面からいうとそこはやっぱり・・・

山内 そうですね。もちろん会社のためにやるんですから・・・何も叩いたり切ったりするのが仕事ではありませんし、会社は犯罪者でも何でもありませんので。そこんところをわきまえてやるというか。長い付き合いだからって頼まれたらかなわんですけどね。でも、説得して駄目だったら自分のことを通すというかね。無責任なコンサルタントだったら、それは太鼓持ちみたいなこと言うて喜ばしといたらいいわけですけど、僕らの仕事はちょっと相手の気持ちを悪くさせてなんぼというか・・・本当はいけないかもしれませんが。

細野 そこは、分かる気がしますね。コンサルタントは会社を喜ばせてうまく持っていくのと、我々のように会社が嫌なことだと思っけてもそれをビシッと言うってのは必要だと思いますね。

山内 そうですよ。そうありがたいというか・・・それをなくしたら、たぶん会計士の値打ちが無くなっちゃいますよね。値打ちというのはやっぱり正しいことを言っているという世間の期待というか、その意見に依存してる人もいるしね。相手と気心が通

じてからやとやりやすいんですけどね。最初にやると、こいつは何や、何しに来よったんやとなるでしょう。難しいですね、そこがね・・・

玉元 なんか勇気をもらったような気がしますね（笑）。いずれは自分が事務所を運営していくという時に、どういうスタンスを保っていなければならないかということを再認識させられたような気がしますね。

細野 独立してやられてる人も、我々監査法人に勤めている人も当然なんですけど、独立してこれからやってく人に対しても非常に力強いメッセージですね。

山内 いろんな事があると思うんですけどね。とにかく、確率的にこういうもんが巡ってきますしね。それに対してそこを譲らんようにしないと駄目だと思うんですよ。

細野 そうですよ。そこだけは、やっぱり会計士の会計士たる価値というところなんでしょうね。

山内 僕が偉そうにいうことでもないんですけど・・・。

細野 山内先生にそう言ってもらえると重みがあるので、会報にうまくまとめるようにします。本日は、ありがとうございました。



事務所の皆様も一緒に記念写真♪

山内先生をはじめ、山内公認会計士事務所の皆様、お忙しいところ、会報委員の訪問を快くお迎えいただきまして、ありがとうございました（^-^）